

平成 30 年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

＜開催日：平成 31 年 1 月 29 日（火） 会場：埼玉県浦和合同庁舎・講堂＞

昨年度に引き続き、2 回目の「市町村保健事業担当者研修会」を開催しました。県内 45 市町村のほか、県や他団体から計 75 人の職員が参加しました。

○健康格差の解消は社会参加しやすい地域づくりから

第 I 部では、一般社団法人日本老年学的評価研究機構（通称 JAGES）の宮國康弘理事を講師に迎え、『高齢者の保健事業、介護・フレイル予防』というテーマでご講演をいただきました。人とのつながりの重要性に焦点を当て、社会参加しやすい地域づくりと健康格差への影響について、豊富なデータを交えて分かりやすくご説明いただきました。超高齢化社会の到来を目前に、地域環境や社会環境の整備による“ゼロ次予防”が必要というご指摘は、市町村の職員にとって重要な視点であることを気づかされました。



（一社）日本老年学的評価研究機構 宮國理事

○フレイル対策では、戸別訪問指導の事例紹介も



坂戸市高齢者福祉課 松井技師（保健師）

第 II 部では、広域連合における保健事業について、重点項目である『歯科健診結果を活用したフレイル対策』と『生活習慣病重症化予防に関する受診勧奨』の 2 つを中心に説明しました。

また、今年度におけるフレイル対策の実施例として、坂戸市における戸別訪問指導の事例を発表していただきました。保健師によるきめ細やかな支援についてご説明いただき、参加者からは「実際の介入事例を直接聞くことができ、とても参考になった。」と、大好評でした。

フレイル対策の介入支援や生活習慣病重症化予防における個別介入（受診勧奨）では、市町村の協力が欠かせません。地域の高齢者の健康を守るため、来年度以降も広域連合と連携した取組の実施をお願いします。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- 具体的な取組や数値が示され、とても分かりやすかった。
- 人とのつながりや社会参加の大切さを改めて認識した。介護予防とともに、子どもの貧困対策にも積極的に取り組む必要があると感じた。
- 地域・地区診断の重要性を改めて感じた。庁内の保健師が連携して行っていきたい。
- 通いの場の開設PRの際に使えるデータがたくさんあり、すぐに活用できる。
- 今後さまざまな健康問題への対応が必要になると思うので、他部門とも連携していきたい。
- 坂戸市の事例発表が参考になった。個別に丁寧にかかわっていくこと、ソフトの部分が大切だと感じる。
- 今後も部門をまたいだ形での研修の開催を望む。